



県中いわて

令和4年8月1日 / 第257号

●発行/岩手県中学校長会 ●代表/佐野 理(盛岡市立上田中学校) ●事務局/〒020-0885 盛岡市細屋町2-9
(盛岡市労働福祉会館2F) 電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷/杜陵高速印刷/電話019(651)2110

『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育』 の大会主題のもと、東北地区中学校長会研究協議会宮城県大会が開催!



新型コロナウイルス感染症状況を考慮し第72回東北地区中学校校長研究協議会宮城大会が参集型とWeb参加を併用したいわゆるハイブリッド方式に加え、内容も厳選した1日のみの開催方法にて、2か年ぶりに6月24日に宮城県仙台市のTKPガーデンシティプレミアム仙台西口8階を会場として行われた。

東北各県より参集者約100名、オンライン参加者約800名の会員が、東北地区中学校教育の一層の充実・発展に向け、分科会での研究報告・グループ協議における情報交換を通して研鑽を深めた。

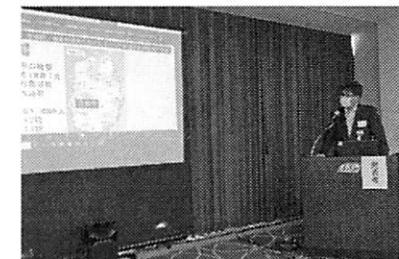
開会式において、東北地区中学校長会の三田村素志会長は、「社会を生き抜く力を育む教育を推進する中学校教育の一層の充実を希求していくためにも、個に応じた指導を学習者の側から整理する『個別最適な学び』や『多様な学びの実現』などの令和の日本型教育の実現に向けた学校づくりのためにも、我々校長は確固たるリーダーシップを發揮していかなければならない。また2か年ぶりに初めての方式による大会であるが、今こそ東北はひとつ的精神のもと、絆を深める大会をしたい」と、あらためて本大会を開催する意義について力強く挨拶され開会した。

開会式後は前日に行われた理事会報告が行われ、「令和4年度東北地区中学校長会宣言・決議」が読み上げられた。

記念講演会は、落語芸術協会三遊亭遊三一門で落

語家の六華亭遊花氏を講師にお招きし、「なまって笑って コミュニケーション」と題して、自らの経験や落語の一節を交えながら、現代におけるコミュニケーションの取り方やその大切さについて、東北訛りの方言で楽しく話された。

方言は、イントネーションの違いや表情・強弱などで表現することが多く、文字で書き表すことは困難なことが多いが、その地域の誰もが話せる。それが今も残っているということは、その地域では世代を超えた会話があるということであり、関わりを持って暮らしていることを示している。東日本大震災では多くのものが奪われたが、訛りは奪われなかつたことがそれを表わしている。SNSやWebではなく、直接顔を会わせてコミュニケーションをとのことの大切さを語られていた。



午後の分科会は、第1分科会「キャリア教育・進路指導」、第2分科会は「健康・安全教育」、第3分科会は「道徳教育」をテーマにそれぞれ研究報告及び協議が行われた。本県からは花巻市立花巻中学校の柏木廣喜校長が、キャリア教育における「総合生活力」と「人生設計力」の確かな育成に向けて花巻市中学校長会で研究実践した成果を発表し、同大迫中学校の菅原俊博校長が協議の司会を務めた。コロナウイルス感染症により、体験学習等の取組ができるない中、工夫改善を図りながら研究を推進した成果が発表された。

①

八幡平市におけるコミュニティ・スクールの取組

八幡平市立西根中学校
校長 寺澤 幸昌



1 はじめに

本校は平成31年4月に学校運営協議会制度のコミュニティ・スクール(CS)に移行し、今年で4年目です。八幡平市内において、中学校としては本校が最初の移行でした。当時の刈谷行方校長と菅原真司副校長が岩泉町でCSを経験しており、そのノウハウを生かしてスタートしたことです。

令和2年度には市内全小中学校14校がCSに移行し、地域とともにある学校・地域に開かれた学校を目指して教育活動を展開しています。

2 CSを維持発展できる理由

私が言うまでもなく、CSに移行することは学校の大改革です。これまであった学校評議会制度とは違います。私が令和2年に本校に赴任し、第1回学校運営協議会を開催した際、その場に集まっていた委員の方々の当事者として抱擁感溢れる雰囲気は、今でも忘れられません。委員は意見を述べるだけでなく、学校とともに責任を取る立場もあります。教職員とともに生徒の成長を支援する「学校の頼りになる応援団」だと心強く感じました。

また、本校がCSを維持し、より良い教育活動を展開できているのは、八幡平市教育委員会の絶大な指導・支援によるところも大きいと感じています。その中でも特徴的なことを2つ紹介します。



① 市教委事務局にコミュニティ・スクールアドバイザー(CSA)を配置

② 市CS推進協議会を年3回計画的に開催
CSAの藤嶋茂美氏は元寄木小の校長であり、自ら「(他校に先行して移行し、)いっぱい失敗してきたからこそお伝えできることがある」と言いながら、市内各校の学校運営協議会に参加されて助言してくださいます。毎回的確な助言により、協議会の質が高まっています。

また、市CS推進協議会では、他校の取組を知ることができたり、最新の情報を入手することができます。また、管理職のみならず委員の資質・能力の向上が図られています。

3 熟議で解決策を見い出す、課題解決に迫る

本校は年4回(4月、7月、12月、2月)、学校運営協議会を開催しています。会議の中で学校の様子を委員にお知らせする「報告」に終始することなく、学校の課題解決を目指した「熟議」が非常に大事です。「熟議で解決策を見い出す、課題解決に迫る」ためにも、毎回の協議題選びを慎重に行っています。

参考までに、昨年度の本校協議会で熟議を意識した協議題を紹介します。

【第1回】新学校教育目標、経営方針について

【第2回】地区奉仕活動のもち方について

【第3回】西根町史を活用した教育活動について

【第4回】制服の男女共通化について

4 おわりに

経験不足・力不足な校長職ですが、本校教職員と「学校の頼りになる応援団」、そして熟議をとおして繋がった多くのヒト・モノ・コト……とともに、生徒やその保護者、地域の成長や発展を実現するCSという組織みを、今後も活かして学校運営してまいりたいと思っています。

先輩メッセージ**「ぶらずにらしゅうせよ」**

坂下 孝 様

(前盛岡市立米内中学校長)



この言葉からは、「校長ぶらずに校長らしくせよ」と捉えるのが一般的だと思いますが、ここは敢えて「校長ぶらずに自分らしく」と言いたいと思います。

自分は話は下手だし、多くの名言を知っている訳でもなし、文科省や県の施策などにそれほど明るい訳でもない、校長一年目は「校長らしくしなければ」に囚われてずいぶん緊張していたように思います。

それでも生徒と一緒に活動したり汗を流したりすることができが昔から好きで、教頭・副校長時代もずっとそれを貫いてきました。手書きの校報を綴ることも「自分にとっての日常」でした。写真と活字できれいにレイアウトされたお便りを目にするのが当たり前の時代に、あまりに昭和チックでアナログな校報は物珍しさも手伝って生徒たちからも保護者からも好評でした（自画自賛。字がすさん）。そしてこれが自分にとっての「武器」になりました。

難しさが予想される教育相談の話し合いも、来校されたお母さんが「今日、校長先生と初めてお会いするのですが、いつも先生のお便りを読んでいますから、初めてお話ししている気がしません」ということで、スムーズに話し合ひがなされたことがありました。似たようなケースが何件か。理論や決まりだけ結論を導くことだけが我々の仕事ではないのだと知りました。

校長ぶらずに校長らしく、いや自分らしく。ないものねだりはせずに、これまでの自分の実践や持ち味に目を向け、持ち味を最大限活かして「勝負」したいと思いました。

コロナ対策と併せて熱中症対策、そんな中でも学校行事や教育課程が確実に遂行できているかの確認など、やるべきこと・課題は常に山積みの毎日だと思います。「課題を横並びにするため息ばかりが出できそうだが、縦に置けば目の前の課題は一つだけ」とある本に書いていました。

どうぞ、心と体を健やかに保ち、今日も明るく元気に学校中を歩き回ってください。校長先生の元気は先生方の元気に直結し、生徒たちの元気とやる気につながります。

先輩メッセージ**「コロナの終息を願って」**

千葉 和仁 様

(前奥州市立水沢中学校長)



昨年までお世話になった中学校では、以前から学び合いに力を入れ、男女が市松模様となった4人グループやコの字型スタイルを取り入れた学習活動を展開してきました。学習指導要領の改訂後も目指す方向にマッチしていることから継続して取り組んできました。4人グループでは「一人も一人にならない」を合言葉に、通常の教科の他に生徒会や学級活動等の諸活動にもこのスタイルを取り入れたことにより、学力のみならず生徒同士の関係やコミュニケーション能力の向上にも繋がってきたと感じています。

ところが、新型コロナウイルス感染症予防のため、ソーシャルディスタンスを意識しなければならず、学習スタイルも変更せざるを得なくなりました。4人グループもこれまで以上に間隔を空けたり、時間を短めに設定したりするなど、本来の流れに持っていくことが難しくなりました。同時に障害となつたのがマスクの着用でした。教科にもよりますが、教師が生徒の表情を見取り、生徒同士も互いの表情を確かめ合うことで、次の手立てを考えることもできていたはずですが、十分な確認が難しくなってしまったことが残念でなりません。勤務校の例で恐縮ですが、どの中学校でも、手法は違っても同じようなことが言えるのではないかでしょうか。

さて、「学校の命は授業である」と言われています。そんな中、新たにGIGAスクール構想による一人一台タブレットの活用による授業も本格実施の方に進み、コロナ禍における、生徒の学習保障の手段として有効に活用できると確信しております。今後、マスクの着用が必要なくなる時は必ずやってきますが、教師は生徒が表情豊かに授業に臨んでいる姿を常に忘れることなく、意識していく姿勢を大切にしたいものです。

終息の様相が未だ見えないコロナ禍にあって、心配が尽きない日々は続いています。一日も早く、生徒たちが制限から開放された本来の学校生活が送れる事を願うとともに、校長先生方の強いリーダーシップのもと活力のある学校経営が展開されますことをご祈念申し上げます。

[3]**新任校長の抱負****「豊かな自然を誇り、守り育てる学校」**

岩手地区 阿部 正史 (小屋瀬中)



小屋瀬中学区にある上外川高原牧場周辺を初めて訪れたとき、あまりに素晴らしい景色に驚きと感動を覚えました。29年も前のことですが、新緑5月の鮮やかな印象は昨日のことのように脳裏に焼き付けられています。また、4年前までの3年間、単身赴任先の野田村と紫波町の自宅との往復。毎週末国道281号の小屋瀬中前を通るたび、両側に広がるなだらかな丘と点在する家々の風景に心が癒されたものでした。さながらイギリスの景勝地コッツウォルズ丘陵を思わせる素敵なたたずまいの小屋瀬に、このたび偶然にも赴任いたしました。この美しい地に導かれたことに不思議な縁を感じています。

本校は、自然の風景の美しさに恵まれているばかりではありません。周りの山や川に足を踏み入れると、嘗々と命が育まれている豊かな自然と、その命を守り育てようとする真摯な子供たちがいます。

小屋瀬中では、平成9年度から、環境ボランティア活動に取り組んでいます。地域に生息する、モリアオガエル、カワシンジュガイ、サクラソウ等の希少動植物の保護・観察を目的に、課題探究学習として継続しています。活動の成果は各方面から高い評価を受け全国的な表彰を何度も受け、本校の伝統として、誇りと自信をもって継承しています。連続と続くこの取組の業績を目の当たりにすると、校長として身の引き締まる思いです。このかけがえのない活動を受け継ぎ発展させることは、本校校長としての大きな責務の一つであり、子供たちが十分に学べる環境を整え、学習の成果を出せるよう支援していきたいと思います。

春から秋にかけての穏やかさとは裏腹に、冬にはマイナス20度近くまで下がる気候の過酷さと、副校长が配置されていないという厳しい学校体制の現状があります。しかしそのような中にあっても、校長として、小屋瀬の子供たちが地域に誇りを持ちたくましく育つよう尽力していきたいと思います。

[4]**新任校長の抱負****「その名うるわし」**

一関地区 菊池 弘明 (大原中)



「来年度で閉校ですよ」。引継ぎの際に前校長から最初にお話しされた言葉でした。何となくは聞いていたものの、いよいよ「最後の1年をどのように学校経営をするべきか」という課題を突きつけられた感がありました。そして、始業式では生徒へ次のことを伝えました。「大原中学校は本年度で閉校となります。とはいっても、何か特別なことをするわけではありません。これまで積み上げてきたものを継承して実行し、そこにあなた方らしさを積み上げ、大原中学校の歴史を締めくくるだけです。」と。これは生徒、教職員へのメッセージであるとともに、むしろ、自分へ言い聞かせたものでもありました。

さて、年度初めに自分に課したミッションは2つ。1つ目は、「全校生徒51名の名前を早く覚えること」でした。そのために、1日の教育活動の多くの時間に、生徒写真を手にして教室巡りをしました。特に、マスクを外す機会である給食時間は欠かさないようにしました。このミッションは、体育祭前にはクリアでき、体育祭では名前を呼んで声援を送ることができました。

2つ目は、「全校朝会等での挨拶の準備を入念にすること」でした。閉校の年ということもあり、全校朝会では「大原中学校の歴史」を年間テーマとして話すこととしました。そこで、周年記念誌を読み込んだり、卒業アルバムを見返したり、インターネットで検索したりして、話題を準備しました。まだ、多くを話していませんが、「大原中学校を仙台台と呼ぶ訳」「校旗に込められた思い」「校歌作詞者について」等を話していきたいと考えています。生徒が閉校を迎える大原中学校に誇りをもち、長く記憶にとどめてもらえたなら幸いと思っています。

「大原中学 その名うるわし」(校歌の最後の一節)。残り数か月、この歌詞に恥じない学校づくりに引き続き打ち込んで参りたいと思います。

新任校長の抱負



「愛をつなぐまち」

二戸地区 吉田 智（浄法寺中）

「学校運営協議会は、フットワークの軽い人たちがそろっているので、安心して色々なことを相談してみてください」

3月下旬の校務引継ぎの際に、前校長先生からお話をありました。

早速、入学式でお会いすることができました。「学校に来るの、楽しみだから」と笑顔で語る皆さん。直前でのご案内でしたが、お仕事の予定を調整し出席されたとのことです。強力な味方がいると本当に心強く思いました。

5月、学校運営協議会委員のお一人ずつから、全校向けに講話をいただきました。中学校のために尽力したい思い、生徒たちへのメッセージ、浄法寺の今とそして未来…。語られる言葉には、愛がたっぷりとつまっていました。6月には、学校の活動を支援していただける地域人材が、委員それぞれが持つネットワークにより、次々に発掘されていました。講演・体験活動の講師や職場体験の受け入れ、ボランティア活動の協力や浄法寺太鼓の指導等、分野も多方面にわたります。まさに、地域に支えられていることを実感致しました。

二戸市の浄法寺地区は、人口が減りつつありますが、明るく元気に、希望や夢をもって暮らしているまちです。いつまでも笑顔に溢れ、まちを支えゆく人になってほしい、やがて離れた地で過ごすことがあっても、心の中で浄法寺を思っていてもらいたい、と地域の方々は願っています。またその願いに応えたい、と生徒たちは心の底から思っています。大人に愛されていることを肌で感じているからです。

地域の力で学校を元気にしていただいて、生徒たちの姿が地域を元気にしていく。その自然な関わりを大切にしていくことが、校長としての大きな役割と思っています。

校長室から見える山々の緑は、春先より濃くそして深くなっています。やがて鮮やかな赤や黄色の景色を経て、一面の銀世界が広がることでしょう。季節や風景が変わっても、このまちを愛する心は、変わらずに人々へ伝えられていくはずです。

新任校長の抱負



「子どもは村の宝」

二戸地区 岡田 幸一（九戸中）

本校は、昭和54年4月、当時九戸村に3校あった江刺家中・伊保内中・戸田中が統合して開設された、村内一校の中学校です。校舎は、九戸村のほぼ中心部の高台に位置し、周囲は緑豊かな山々、眼下には村を流れる瀬内川と九戸の街並みを一望できる絶好のロケーションにあります。

本校には、村内5つの小学校から生徒が進学しています。江刺家・長興寺・伊保内・山根・戸田の各地区は、それぞれが地元愛を持ちながら特色ある地域活動を行っており、それらが1つにまとまる中学校では、各地区的融合とその相乗効果が、学校運営の大きな原動力となっています。

今年はコロナの感染状況が落ち着きを見せていることから、ほぼ3年ぶりに地元の夏祭りやスポーツ大会等が再開される予定です。地域の行事や会合に積極的に足を運び、地域を知り、学校を知ってもらう機会を増やしていきたいと思っています。

一方、村内唯一の中学校ゆえ、教育委員会とも密接な関わりがあります。学校と行政の垣根なく、日頃から想切丁寧なご指導をいただいており、新任校長の自分にとっては、大変心強い存在です。教育長さんが、ふと中学校に立ち寄るのは日常茶飯事。素直な生徒たちと穏やかな先生方に囲まれるなか、教育長さんの「ふらり旅」に適度な緊張感を持ちながら、充実した日々を送っています。

郡部の町村が抱える少子化や人口流出といった問題は、本村でも待ったなしの課題です。地域と行政と学校が一致団結し、幼小中高の連携を密にして、試行錯誤の取組を進めているところです。

子どもたちに村の明るい未来を提示するには、まずは我々教職員が村に愛着を持ち、学校に誇りを持って、元気に楽しく働くことだと思っています。

地域の皆さんがあなたの口にする「子どもは村の宝」という言葉、これまでよく耳にしたフレーズです。ここ九戸に来て、改めてその意味の重さと自身の職責の重さを感じつつ、今後とも職務を果たしたいと考えています。

[5]

[6]

各地区校長会活動

NOW

盛岡地区校長会



「本音で語る校長会」

石川 健（乙部中）

1 はじめに

情報共有に努め、結束を強固にし、諸課題に対し可能な限り同一歩調で立ち向かう。そんな思いをもって市内23校のネットワークづくりに力を入れている。課題解決への活路を求める、互いの知恵を出し合えるような「本音で語る校長会」を姿勢の中心に据える。

2 本年度の活動方針

- (1) 当面する教育課題への対応
- (2) 会員相互の連携と研修・親睦
- (3) 教育諸条件の充実

3 本年度の主な活動内容

- (1) 課題別研修の導入
堅実な教育課題について小グループで熱議する時間を、今年度から導入した。年3回を計画しており、「不登校・いじめ」「働き方改革・

労働衛生」「保護者・クレーム対応」の3テーマを選定。時間の多くを意見交換に割き、思いや考えを十分に語り尽くすことによって、会員個々が有する豊かな識見を共有財産化するという意図もある。

2 校長研修会の実施

前述の「保護者・クレーム対応」問題に特化した研修会を市小学校長会と共に、対応強化に乗り出す。本課題の市内の現状は決して樂観的ではなく、クレームの内容・強度・頻度とも過剰と思われるケースが散見される。労働衛生の観点からも看過しえぬ課題であり、学校経営に携わる者として法的な根柢に基づく学習を深めるとともに、教育委員会との連携等、組織的な体制づくりへ第一歩を踏み出したところである。

4 おわりに

学校教育は、教職員の健康が前提となって具現化されるものであり、その先頭に立つ校長自身の心身の安定は、健全経営の必須条件である。本会を通じて校長同士の連帯が深まり、経営判断の際の視界がより清澄なものとなるよう努める所存である。

和賀地区校長会



「相互の連携を図り 学校経営の充実をめざす」

千田 浩身（東陵中）

1 はじめに

和賀地区中学校部会は、北上市9校、西和賀町2校の11校で構成されています。4月に4名の新任の校長先生方をお迎えしたこともあり、11名全員で情報を共有し、足並みをそろえて様々な局面に対応していきたと考えています。

2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を密にし、活動の充実と活性化を図る。
- (2) 学校経営の充実に向けた研修を推進する。
- (3) 働き方改革、コロナ対応、部活動の在り方等、今日的な課題に対応できるよう連携を図りながら改善に努める。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 研修は、計5回予定している。小中一緒の

全体研修会1回、班別研修会（中学校部会）3回、研究発表会1回。

- (2) 地区中学校・高校校長連絡会 年2回
- (3) 「教育の記録『学校経営の充実』」を作成し、学校経営の実践を紹介する。

(4) 退職校長会の皆さんと交流する「和賀の教育を語る会」の開催。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、交流を図る機会を思うようにもつてないことから、班別研修会の際には学校経営に関する悩み等について、情報交換を行う時間を取りようとしている。

4 終わりに

校長は、いろいろな場面で責任ある判断を求められます。新型コロナウイルスがなかなか収束しない中、各種行事についても一つ一つ悩みながら決断している現状があります。管内11校が、校長の適切なリーダーシップの下、教職員も生徒も安心・安全で、意欲や充実感を感じながら日々の生活を送ることができるよう力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

各地区校長会活動 NOW

花巻地区校長会



「withコロナの中で」

阿部 久幸（東和中）

1はじめに

花巻地区中学校部会は、花巻市内11校で構成されています。コロナ禍において教育活動が制限される中、生徒の安全安心の確保及び活動の在り方等、情報交換を密におこないながら足並みを揃えて活動を展開しています。昨年度の会員からの願いが変わることなく今年度を迎えてることから、率直に意見を出し合いながら活動をおこなっています。

2本年度の活動方針

- (1) 学校経営上の課題解決に努め、適切な学校経営にあたる。
- (2) 校長としての見識及び力量を高める学校経営研修にあたる。
- (3) 学校間及び会員相互の連携を深め、組織の強化にあたる。

宮古地区校長会



会員相互の情報共有を密にし、連携・支え合いを重視した会員組織を目指して

村田 賢（河南中）

1はじめに

宮古地区校長会中学校部会は、宮古市11校、山田町1校、岩泉町3校、田野畠村1校の16校で構成されています。新任校長の割合が高いこともあり、校長会として連携・支え合いを重視し、会員相互が情報共有を密にしながら、よりよい学校経営を展開するために活動しています。

2本年度の活動方針

- (1) 地域を担う人づくりのために「復興教育」を推進する。
- (2) 地域課題に対応できる地区校長会の組織づくりを推進する。
- (3) 創意に満ちた特色ある学校経営の充実に努める。
- (4) 専門職としての識見・力量の向上に努める。

3 主な活動内容

- (1) 定例中学校部会〔年5回〕及び臨時部会：学校経営に係る情報交換をおこなう。
- (2) 学校経営研修会：学校経営に係る研修成果を発表し、助言等を学校経営に反映させる。
・令和4年度第72回東北地区中学校長会研究協議会 発表
・令和4年度第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会 発表
・令和4年度花巻市校長会学校経営研修会 発表
- (3) 学校経営研究会〔年1回〕：会場校の学校経営をもとに協議し、学校経営の充実を図る。
- (4) 花巻地区中高連絡協議会〔年2回〕：中学校及び高等学校の校長が意見交換をおこなう。

4 終わりに

収束が見えない中、感染対策を講じての「withコロナ」による教育活動は今後も続くものと思われ、その都度、適切な判断が求められています。また、この機に縮小して実施した教育活動は、「本来のねらい」が明確になり、例年通りの学校体制を見直す機会となりました。従前に戻すことなく、教職員の意識改革（働き方改革）を推進するために、管理職としての見識を深め、かつ英断する覚悟を共有しながら活動を推進していかたいと思います。

- (5) 教育諸条件の改善に向けた取組を促進する。
- (6) 新型コロナウイルス感染症対策の取組を進めること。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 総会・研修会・研究発表会の実施
- (2) 学校経営にかかる研究推進
「新たな学校不適応を生み出さないための効果的な対応の在り方へ～望ましい校内体制構築のため、校長に何が求められ、何をすべきか～」
- (3) 中学校長・高等学校長連携会議の実施
- (4) 部会研修会・情報交換会の実施
各種会議や研修会の後に、中学校部会で集まり、学校経営・各校共通課題・各種行事の実施・部活動・進路等について研修会や情報交換を行う。

4 おわりに

今年度もまだ新型コロナウイルス感染症の影響を受け、通常の活動・学校行事・部活動等のように学校経営を進めなければいけないか判断に迷うことが多いですが、校長会での情報交換や先輩校長からのアドバイスにより助けられています。校長会の取組が学校経営や教育活動の下支えになっていることを実感する日々です。

私の学校経営

「迷いながら、悩みながら」

遠野地区 新井野邦夫（遠野西中）

を高め、自分の役割を意識し動けるようにしなければならないと感じた。

そこで、次に参画意識を高める取組の工夫をしてみた。まずは、経営の重点を実現するために、具体的な施策を担当に考えてもらい個別に面談しながらその施策を作成した。進捗状況や達成度がわかるふり返りの機会（学校評価）を設け、さらに、取組の途中でも担当に声をかけ、一緒に考えたり支援したりした。このことで取組も進むようになった。校長は、先生方の動きをしっかりと見取り、良さを認め、不足を支援する事が大切であり、ひいてはそのことが人材育成につながると感じた。しかし、それがなかなか難しい。

大切なことは、「校長の思いや考えをどう伝えるか」である。職員会議、全校朝会や行事等で、あるいは日々の会話の中でどう話すかがとても大切である。失敗を繰り返しながら、日々精進の毎日である。

先日行われた校長研修講座で、事務所長さんから「ほんものチーム」の条件として3つ教えていただいた。学校経営をふり返るいい機会となった。これからも「ほんものチーム」を目指し取り組んでいきたい。

場づくりが、心がけの第一です。

校長は常に選択を迫られます。一方で、先生方はそれぞれに大事にしている教育観や指導経験をお持ちです。意見が分かれるのは当然で、合意形成もまた容易ではありません。選択に迷う時は、原則に立ち返って判断することを心がけています。その原則とは、「人として正しいかどうか」です。小学校の経営は校長の求心力にあり、中学校の経営は教員の遠心力にありますと言われたりしますが、だからこそ経営の軸となる原則がぶれるこの無いように踏ん張っています。

恥ずかしながら若い頃の私は、相手を言葉で論破し自分の考えを押し通すことが度々でした。しかし、それでは人はついてきてくれません。「議論は人を分けるが、実践は共感を教える」とは、石川洋の言葉です。誠意をもって人や仕事と向き合い、先生や生徒と共に汗をかく校長でありたいと思っています。

校長として心がけていることを三つ挙げてみました。凡事と笑われそうですが、私にはこれが存外に難しいのです。日暮れて道遠し、日々省内省しながら歩き続けています。

私の学校経営

校長として心がけていること

久慈地区 南 隆人（大野中）

親交の厚い某先生が校長在職中、宴席でこう呼ばれたことがあります。「中学校の校長なんて、飾りみたいなものだからな。」苦笑いしながらコップを傾ける姿に、謙遜と共に本音が垣間見えたような気がしました。

年を経て、時折その言葉を思い出します。以下は、そんな私が心がけていることです。

「この先生の言うことには逆らえない」、どこの職場にもそういう人がいるものです。組織内的一部が権力を握り、全体がそれに追従しているような職員集団からは、建設的な意見や新しい発想は生まれません。対立を避けて易きに流れる内向きの組織は、やがて教育活動を劣化させていきます。それに立ち向かい、組織運営を主導するのは、校長をおいて他にありません。民主的で開かれた職